

ロシア語の y + 生格構文における動詞 **ЕСТЬ** の使用

青 木 正 博

要 旨

ロシア語では、y + 生格構文において、1) の例のように動詞 **есть** が使われる場合と 2) の例のように動詞 **есть** が使われない場合がある。

1) **У вас есть деньги?**

“あなたはお金を持っていますか？”

2) **У вас большая квартира?**

“あなたは大きいアパートを持っていますか？”

本稿では、動詞 **есть** の使われ方に影響を与える4つの要因を設定し、それらの4つの要因が動詞 **есть** の使われ方にどのように影響を与えるかを検討した結果、次のようなことが分かった。

1. 主語にかかる形容詞や量を表す語があると、動詞 **есть** は使われにくい。
2. 主語が非具体名詞である場合、動詞 **есть** は使われにくい。
3. 時や場所の状況語があると、動詞 **есть** は使われにくい。
4. 疑問詞のない疑問文である場合、動詞 **есть** は使われやすい。

さらに、資料を検討した結果、ロシア語の y + 生格構文における動詞 **есть** の使用を決定する要因は、存在の意味が伝達の焦点に入るという要因であるが、存在の意味が伝達の焦点に入るかどうか、上の4つの要因が影響を与えることが分かった。

キーワード：u + 生格構文，存在動詞，ロシア語，所有構文，焦点

1. は じ め に

ロシア語では、y “... のところに” + 生格構文において、1) の例のように存在動詞 **есть** “ある、いる” が使われる場合と、2) の例のように動詞 **есть** が使われない場合がある。

1) **У вас есть деньги?** (Чул.)

“お金持ってらっしゃる？”

2) **У вас большая квартира?** (Диа.)

“あなたは大きいアパートを持っていますか？”

ところで、y + 生格構文において、動詞 **есть** が使われるかどうかには、いろいろな要因が影響を与えると考えられている。そこで本稿では、まず4つの要因を設定し、それぞれの要因がある場合に、ロシア語の資料において動詞 **есть** がどのように使われているかを調べてみる。そして、その結果を基にして、ロシア語の y + 生格構文において、動詞 **есть** が使われるかどうか、どのように決まるかを検討する。

資料としては、ロシア語の会話の教科書、ヴェムピーロフの戯曲、シュクシーンの短編小説を用いた¹⁾。

2. 従来 の 研 究

この節では、本稿の内容と関係した2つの主な研究について簡単に触れることにする。

Селиверстова (1973) は、 $y +$ 生格構文において動詞 *есть* が使われる場合と使われない場合の意味の違いについて検討しているが、動詞 *есть* のある構文を $\langle y X \text{ есть } Y \rangle$ 、動詞 *есть* のない構文を $\langle y X Y \rangle$ と表し、 $\langle y X \text{ есть } Y \rangle$ は Y が X のところに存在することを伝え、 $\langle y X Y \rangle$ はどんな Y が X のところにあるかを伝えると述べている。

「資料の研究は、 $\langle y X \text{ есть } Y \rangle$ は Y が X のところにあること、存在することを伝えることを示した。それに対し、 $\langle y X Y \rangle$ はまさにどんな Y が X のところにあるか、あるいはより正確には、まさにどんなクラスの成員に X のところにある Y は等しいかについての情報を伝えることができる。たとえば、

Что у тебя в кармане? “きみのポケットに何かがあるの?”

Что у тебя в руках? “きみの手に何かがあるの?”

タイプの問題は、明らかに話し相手の手、ポケットに何かがあるという知識を前提にしているが、 $\langle y X Y \rangle$ モデルに基づいてのみ作られえる。これらの質問の目的は、話し相手にまさに何かがあるかを定めることである。

それに対して、話者が X のところに Y があることをまったく知らないならば、彼は *есть* をともなった質問をする。

У вас есть что-нибудь в кармане? “あなたのポケットには何かありますか?”

У вас есть что-нибудь в руках? “あなたの手には何かありますか?” (97 ページ)

ところで、Панде (1981) は、Селиверстова (1973) が挙げた上述の意味をそれぞれ「存在の意味」、「明確化の意味」と呼んでいる。

Селиверстова (1973) はさらに、 X のパラメータである集合 M があり、 Y は集合 M の要素であると書いて、次のような例を挙げている。

「たとえば、

у меня есть дочь “私には娘がいる”

という文において *дочь* “娘” という語は、《話し手の親族》という集合の要素の中に Y があることが話題になっていることを示している」(98 ページ)

そして彼女は、 $\langle y X \text{ есть } Y \rangle$ と $\langle y X Y \rangle$ の構文を区別する第2の特徴について以下のように述べている。

「 $\langle y X \text{ есть } Y \rangle$ の構文は、 Y が、 Y と同時に他の成員も持つか持ちえるような集合 M に入る

ということ伝える。それに対して、《y X Y》の構文は、M の要素の数が必ず、たとえ潜在的にでも、Y よりも大きいという情報を持っていない。」(99 ページ)

そして彼女は、以下のような例を挙げているが、動詞 *есть* のある例ではおもしろくない本があるが、動詞 *есть* のない例では、きっとおもしろくない本はなく、おもしろい本ばかりであると考えている。

「 У нее есть интересные книги.

(すなわち、存在する本のいくらかはおもしろい)

У нее интересные книги.

(すなわち、きっとすべての本がおもしろい)」(100 ページ)

すなわち、《y X *есть* Y》の構文では、M は Y より大きく、《y X Y》の構文では、M は Y と等しくなりえるのである。Панде (1985) は、Селиверстова (1973) が挙げた上述の意味をそれぞれ「部分性の意味」、「全体性の意味」と呼んでいる。

Арутюнова и Ширияев (1983) は、本稿で扱っている y + 生格構文のみならず、

В этом озере есть рыба? “この湖には魚がいますか?”

のような場所を表す文を含めた存在文における動詞 *есть* の使われ方について検討をしている。そして彼らは、動詞 *есть* が使われる文を次の 4 つのタイプに分類している²⁾。

「1a — 動詞 *быть* だけが論理的力点を受けている文

Ягоды в лесу есть? — Да, есть; Нет, нету.

“イチゴは森にありますか? — はい、あります; いいえ、ありません”

1б — 2重のレーマを持つ、中立タイプの文

В лесу есть ягоды. “森にイチゴがある”

2a — 存在の領域が事物の総体 (クラス) である文

Среди лесных ягод есть ядовитые.

“森のイチゴの中には毒のあるイチゴがある”

2б — 導入 (提示) 文

Есть у меня один приятель. “私には一人の友人がいる”

Есть у меня к тебе одно дело. “私には君に 1 つの用事がある”」(83 ページ)

また、Арутюнова и Ширияев (1983: 87) は、動詞 *есть* が省略されるのは、伝達の焦点に以下のようなものが入る場合であると言っている。

1) 存在する事物を表す名詞

2) 名詞の質的定語

3) 名詞の量的定語

そして、これらの場合、存在の意味は、類別、特徴づけ、あるいは同一化の意味に変形すると言っている。

3. 資料の分析

まず、それぞれの資料において、動詞 *есть* のある構文と動詞 *есть* のない構文が使われていた頻度を示すと以下ようになる。

表 1

	<i>есть</i> のある構文	<i>есть</i> のない構文	計	<i>есть</i> のある構文の割合
会話の教科書	60	88	148	41%
ヴァンピーロフ	36	142	178	20%
シュクシーン	14	45	59	24%
計	110	275	385	29%

動詞 *есть* のある構文の使われる頻度は、全体で見ると 29% と低いが、会話の教科書では、他の 2 つの資料と比べて、高くなっている。

ところで、資料を分析するに当たって、動詞 *есть* の使用に影響を与えると考えられる以下の 4 つの要因を設定して分析してみる。なお、y + 生格構文においては、存在する事物は主語によって表されている。

- I. 主語にかかる形容詞や量を表す語がある
- II. 主語が非具体名詞である
- III. 時や場所の状況語がある
- IV. 疑問詞のない疑問文である

I. 「主語にかかる形容詞や量を表す語がある」は、Арутюнова и Ширяев (1983) の「2) 名詞の質的定語」と「3) 名詞の量的定語」と関係し、IV. 「疑問詞のない疑問文である」は、「1a — 動詞 *быть* だけが論理的力点を受けている文」と関係する。また、会話の教科書では、動詞 *есть* のある構文の頻度が高いので、会話の教科書で動詞 *есть* のある構文がどのように使われているかも検討してみる。

3.1. 主語にかかる形容詞や量を表す語がある

この項では、主語にかかる形容詞や量を表す語がある場合に、動詞 *есть* のある構文と動詞 *есть* のない構文がどのように使われていたかを検討してみる。それぞれの構文が使われていた頻度を表にすると以下ようになる。

形容詞の場合も、量を表す語の場合も、動詞 *есть* のある構文の割合が、表 1 で挙げた資料全

表 2

	есть のある構文	есть のない構文	計	есть のある構文 の割合
形 容 詞	16	85	101	16%
量を表す語	7	28	35	20%

体における割合 (29%) より低いことが分かる。このことと関連して、Арутюнова и Ширяев (1983: 87) は、「伝達のアクセントが名詞の量的あるいは質的定語に移るなら、動詞の構成要素 **есть** はあらゆる場合に使われない」と述べ、以下のような例を挙げている。

У меня много знакомых. “私にはたくさんの知人がいる”

Здесь множество всякой рыбы. “ここにはあらゆる魚がたくさんいる”

У него чистая совесть. “彼には清らかな良心がある”

В комнате старинная мебель. “部屋には昔の家具がある”

ところで、この項では、最初に、同じ名詞に形容詞や量を表す語がかかっている例とかかかっていない例の違いについて、次に、形容詞と名詞の結合が意味的に自由である例とまとまっている例の違いについて見てみる。

(1) 同じ名詞に形容詞や量を表す語がかかっている例とかかかっていない例

まず、同じ名詞に形容詞や量を表す語がかかっている例とかかかっていない例について見てみると、形容詞や量を表す語がかかかっていない場合に動詞 **есть** のある構文が使われ、形容詞や量を表す語がかかっている場合に動詞 **есть** のない構文が使われている例がかなり見られる。

3) Надо сделать так, чтобы вечером мы были в комнатах одни. Чтобы к нам никто не приходил. У меня есть план... (Ча.)

“晩に私たちだけが部屋にいるようにしなければならない。私たちのところに誰も来ないようにしなければならない。私には計画があります...”

4) Зилев. Да вот раздумал... У меня другие планы. (Ути.)

“ズィーロフ：ただ考えが変わったんだよ... 別の計画があるんだ”

これらの例では、**план** “計画” という名詞が、3) では形容詞を伴わないで動詞 **есть** のある構文で使われており、4) では形容詞 **другие** “他の” を伴って動詞 **есть** のない構文で使われている。3) では、マフィアに捕えられた母と娘がいて、娘が逃げ出す計画を思いついたのであり、計画の存在することが伝達の焦点に入っている。それに対して、4) では、もともと鴨猟に行く計画があったが、他の計画を思いついて行くのを止めたことが伝えられ、形容詞 **другие** の方が伝達の焦点に入っている。

5) Васенька. Папа, я — серость. Это давно известно. Зато у тебя есть дочь. Она серьезная,

умная, красивая. (Ста.)

“ワーセンカ：お父さん、僕はぼんくらさ、そんなこと昔から分かってるじゃないか。
その代わり、お父さんには娘がいるんだ。しっかり者で、頭が良くて、
美人の娘が”

6) — Сколько лет вашей дочери?

— Семнадцать.

— О! Я не думал, что у вас такая большая дочь. (Го.)

「あなたの娘さんは何歳ですか？」

「17歳です」

「ああ！ 私はあなたにそんなに大きな娘さんがいるとは思わなかった」

5) の例では、ワーセンカが父親に向かって、自分は出来が悪いが、立派な姉がいるので、自分は家を出て行ってもよいではないかと言っている。娘がいることは当然のことながら父親には分かっているが、ワーセンカは、自分が家を出て行く理由として、娘（姉）のいることを強調しており、存在の意味が伝達の焦点に入っている。6) の例では、5) の例と同様に、娘がいることは直前の文脈で示されているが、17歳の大きな娘がいることに驚いており、*такая большая* “そんなに大きな” という結合が伝達の焦点に入っている。

量を表す語がかかる例としては、名詞 *время* “時間” が挙げられる。*время* が量を表す語なしで単独で用いられている例が3例あるが、3例とも動詞 *есть* のある構文において使われていた。これらの例では、時間があることが伝達の焦点に入っている。

7) Если у вас есть время, приглашаю вас на заседание Совета. (Диа.)

“あなたに時間があれば、あなたを理事会に会議に招待します”

8) Блэйк. Может быть, мы обойдём вокруг стадиона? У нас, кажется, есть ещё время. (Диа.)

“ブレイク：もしかしたら、競技場のまわりを回りませんか？ どうやら、私たちにはまだ時間がありますから”

一方、*время* が量を表す語とともに使われている例が6例あるが、6例とも動詞 *есть* のない構文において使われている。これらの例では、どのくらい時間があるかが問題になっており、量を表す語が伝達の焦点に入っている。

9) Успеем, у нас ещё много времени, до Нового года целых две недели. (Го.)

“間に合いますよ、まだたくさんの時間がありますから。新年までまる2週間あります”

10) Русин. У вас достаточно времени, чтобы успеть пообедать и даже немного отдохнуть. (Диа.)

“ルーシン：あなたには昼ご飯を食べて、少し休息さえできる十分な時間があります”

次に、名詞 *дети* “子供” に量を表す語や形容詞がかかっている例とかかかってない例について見てみる。名詞 *дети* に量を表す語がかかっている例は5例あるが、5例とも動詞 *есть* のない構

文で使われている。

11) У моих родителей трое детей — моя сестра, я и мой брат. (Го.)

“私の両親には3人の子供がいる。私の姉、私、それから私の弟です”

12) Несколько лет назад Тانيا вышла замуж. У неё двое детей — сын и дочь. (Го.)

“数年前ターニャは嫁いだ。彼女には2人の子供、息子と娘がいる”

これらの例では、子供の人数のことが問題になっており、その後で、具体的にその子供が誰であるかが示されている。したがって、量を表す語が伝達の焦点に入っている。

名詞 **дети** に形容詞がかかっている例が1例あるが、それは動詞 **есть** のない構文で使われている。

13) Сарафанов. Нет-нет, меня не назовешь неудачником. У меня замечательные дети. (Ста.)

“サラファーフ：いやいや、わしのことを人生の敗残者なんて言えやしない。じつに素晴らしい子供たちがいるんだから”

この例では、サラファーフは、自分には素晴らしい子供たちがいるので、人生の敗残者ではないと言っているのだから、形容詞 **замечательные** “素晴らしい” が伝達の焦点に入っている。

一方、名詞 **дети** が単独に用いられている例は3例あるが、2例は **есть** のある構文で使われ、1例は **есть** のない構文で使われている。

14) — У вас есть дети?

— Да. У меня трое детей: дочь и два сына. (Пра.)

“「あなたにはお子さんはいますか」

「はい。私には3人の子供がいます。娘と2人の息子です」”

15) — Кто первый помер, есть кому схоронить.

— У вас же дети! — вдруг нервно возвысила голос Мальшпева. (Шу.)

“「どっちか先に死ねば、葬ってくれる人がいるわけだ」

「あんたちには子供がいるじゃないの！」突如マールイシェワは神経質に声を高めた”

14) の例では、最初の文は疑問詞のない疑問文である。3.4項で検討するように、疑問詞のない疑問文では、存在の意味が伝達の焦点に入ることが多く、動詞 **есть** のある構文が使われることが多い。この文では **дети** が単独で用いられており、子供がいるかいないかが伝達の焦点に入っている。その返事の文では、量を表す語 **трое** “3人” が名詞 **дети** にかかっている、数詞 **трое** が伝達の焦点に入っており、動詞 **есть** は使われていない。15) の例では、子供がいることが強調されているが、それは強意の助詞 **же** によって表されており、動詞 **есть** は使われていない。

(2) 形容詞と名詞の結合が意味的に自由である例とまとまっている例

次に、形容詞と名詞の結合が意味的に自由であるか、まとまっているかという観点から検討

する。

このことと関連して、Панде (1981) は次のように述べている。

「*есть* を持つ構文において、特別の問題になるのは定語の使用である。存在の意味を持つ構文では、定語は被定語とともに意味的に統一された全体をなし、定語は被定語から引き離すことはできない。たとえば、

21. У меня есть красный карандаш.

“私は赤鉛筆を持っている”

22. В нашем городе есть автомобильный завод.

“私たちの町には自動車工場がある”

23. У нее есть белый костюм.

“彼女は白い服を持っている”

24. У меня есть полевая почта одного генерала.

“私はある将軍の野戦郵便を持っている”

これらの構文では、**赤鉛筆**、**自動車工場**、**白い服**、**ある将軍の野戦郵便**の存在が主張されている」(295 ページ)

そこで、まず、いろいろな名詞と意味的に自由に結びつく形容詞 *большой* “大きい”，*хороший* “よい”，*плохой* “悪い” と名詞の結びついた例について見てみる。

動詞 *есть* のある構文について見てみると、上に挙げた形容詞と名詞が結びついた例は、次の例だけであった。

16) — *Есть шахматы из кости очень тонкой работы.*

— По-моему, у него есть хорошие шахматы.

— Посмотрите изделия из кожи. У нас есть хорошие папки и бумажники.

— О, вот что я куплю. (Го.)

「象牙で出来たチェスがあります、とても手の込んだ細工です」

「彼はよいチェスを持っているような気がします」

「革製品を見てください。私たちの店には素晴らしい書類入れと財布があります」

「ああ、これを買います」

この例は、会話の教科書からの例で、店員と買い物客の会話である。店員がお客に品物を勧めるときやお客がその品物はありますと言って断る場合、動詞 *есть* のある構文を使うのがふつうである (3.5 項を参照のこと)。16) の例では、まず店員が象牙で出来たチェスがありますと言ってチェスを勧めているが、男性のための贈り物を買いに来た客は、その男性はよいチェスを持っていると言って断っている。この場合は、伝達の焦点に動詞 *есть* と形容詞 *хорошие* “よい” が入っていると考えられる。それに対して、店員は素晴らしい書類入れと財布がありますと言って書類入れと財布を勧めており、この場合も伝達の焦点に動詞 *есть* と形容詞 *хорошие*

が入っていると考えられる。

一方、動詞 **есть** のない構文について見てみると、**большой** が 12 例、**хороший** が 7 例、**плохой** が 3 例使われている。

- 17) Сарафанов. (неуверенно). Нина, у нас большая радость. Наконец-то нашелся старший брат. (Ста.)

“サラファーノフ：(確信なげに) ニーナ、我が家にとてもめでたい事があるんだよ。とうとうお前の兄さんが見つかったんだ”

- 18) Мастер Не больно?

Блэйк. Нет, у вас хорошая бритва. Меня никогда в жизни так хорошо не брили. (Диа.)

“床屋：痛くありませんか？”

ブレイク：いいえ、あなたはすばらしいかみそりを持っていますね。私は生まれて一度もこんなにうまく剃ってもらったことはありません”

- 19) Колесов. Таня, в своем папе вы не ошиблись. У вас хороший папа. Добрый, серьезный, авторитетный. (Про.)

“コーレソフ：ターニャ、君は自分のパパについて間違っていないと思うよ。君にはいいパパがいるよ。善良で、誠実で、権威あるパパだ”

- 20) — Я плохо сплю и быстро устаю. У меня плохой аппетит. (Го.)

“私はよく眠れなくて、すぐに疲れます。私は食欲がありません”

17) の例では、とうとう兄が見つかって、喜びが大きいと言っていて、喜びがあることではなく、喜びが大きいことが伝えられている。18) では、かみそりがあることではなく、かみそりがすばらしいことが伝えられている。19) では、パパのことは直前の文脈で触れられており、そのパパがすばらしいことが強調されている。20) でも、食欲がないことが伝えられている。したがって、これらの例では、形容詞の **большой**, **хороший**, **плохой** が伝達の焦点に入っており、これらの形容詞によって名詞が指す対象が明確化されていると言える。

次に、形容詞と名詞が意味的にまとまった結合を成している例を検討する。

動詞 **есть** のある構文について見てみると、表 2 に示されているように、主語にかかる形容詞がある場合の動詞 **есть** のある構文は 16 例と少ないが、その中では **здравый смысл** “良識”，**лишний билет** “余ったチケット”，**московская колбаса** “モスクワ風ソーセージ”，**научный руководитель** “研究指導者”，**сухое вино** “辛口ワイン”，**зубная паста** “練り歯磨き”，**свободные номера** “空き部屋” などの形容詞と名詞が意味的にまとまった結合をなす例が多い。

- 21) Кушак. Скажите, Валерия. У вас, слава богу, есть здравый смысл. (Ути.)

“クシャーク：おっしゃっててください。ありがたいことに、あなたには良識ってものがあるからな”

22) Тanya, не хочешь ли ты пойти сейчас в кино? У меня есть лишний билет. (Пра.)

“ターニャ、きみは今映画に行きたくないですか？ 私は余った切符を持っています”

23) — Скажите, пожалуйста, у вас есть свободные номера?

— Да, есть. (Го.)

“すみませんが、あなたのところには空き部屋がありますか？”

「はい、あります」

21) の例では、ワレーリヤがすばらしい考えを思いついたのだが、クシャークは、ワレーリヤに良識があるのだから、その考えを言ってほしいと言っている。22) では、余った切符があるから映画に行かないかと誘っている。したがって、21) では良識の存在が、22) では余った切符の存在が伝達の焦点に入っている。23) は、存在の意味が伝達の焦点に入ることが多い疑問詞のない疑問文である。実際、この例は宿泊客とホテルのフロントの会話であり、Да, есть. “はい、あります” という返事から分かるように、この例では存在の意味が伝達の焦点に入っている。

ところで、これらの例では、形容詞と名詞が意味的にまとまった結合をなしているので、形容詞と名詞の結合はあたかも1つの単語のようであり、большой, хороший, плохой などの形容詞と名詞の結合の場合とは異なり、形容詞が伝達の焦点に入りにくいと言える。

次に動詞 есть のない構文について見てみると、表2に示されているように、主語に形容詞がかかっている例が85例と多いにもかかわらず、形容詞と名詞が意味的にまとまった結合を成している例は、хозяйственная сумка “買物袋”，сердечный приступ “心臓発作”，кредитная карточка “クレジットカード”，свадебное путешествие “新婚旅行”，электрическая бритва “電気かみそり” など少数である。

24) Кашкина появляется и спускается вниз. В руке у нее хозяйственная сумка. (Чул.)

“カーシキナが出て来て下に降りて来る。手に買物袋を下げている”

25) Рукоусев. (Измеряет Калошину давление) У него сердечный приступ. (Мет.)

“ルコスーエフ：(カローシンの血圧を計る) 心臓の発作です”

ところで、これらの例で、動詞 есть のない構文が使われている理由は、24) の例では、カーシキナが主語が指す対象を手に持っているからであり(3.3項参照のこと)、25) の例では、主語の名詞句が病気の名称であるからである(3.2項参照のこと)と考えられる。

最後に、この項で検討したことをまとめると、主語に形容詞や量を表す語がかかると動詞 есть のある構文が使われにくくなると言える。この傾向は、名詞と意味的に自由に結びつく形容詞の場合に著しく、名詞と結びついてまとまった意味をなす形容詞の場合には見られない。

3.2. 主語が非具体名詞である

主語が代名詞によって表されているか、名詞によって表されているか、さらに、名詞によっ

て表されている場合は人間を表すか、具体物を表すか、非具体物を表すかによって、動詞 *есть* のある構文と動詞 *есть* のない構文の頻度を調べると表3のようになる。ところで、本稿では、具体物を目で見ることができるもの、非具体物を目で見ることができないものとする。

表 3

	<i>есть</i> のある構文	<i>есть</i> のない構文	計	<i>есть</i> のある構文の割合
代名詞	16	17	33	48%
人間	15	33	48	31%
具体物	54	86	140	39%
非具体物	25	139	164	15%
計	110	275	385	29%

表から、非具体物の場合に他の場合と比べて、動詞 *есть* のある構文の頻度が低いことが分かる。

この点に関して Аругюнова и Ширяев (1983) は次のように述べている。

「名詞の意味が質的、そしてこの意味で述語的であればあるほど、その名詞は動詞の構成要素 *есть* と結合することはまれである：

Здесь ужас (жуть). “ここは恐ろしい (気味悪い)”

У тебя в голове ералаш (путаница, глупости).

“きみの頭は混乱している (きみの頭は混乱している, きみの頭には馬鹿な考えが浮かんでいる)” (86 ページ)

そして、彼らは、このような場合に動詞 *есть* が使われるのは、動詞 *есть* だけが伝達の焦点に入る場合 (第2節で挙げた 1a タイプ) であると述べている。

Сегодня в клубе ёсть танцы? — Да, танцы сегодня ёсть.

“今日クラブでダンスがありますか? — はい, ダンスは今日あります” (86 ページ)

そこで、この項では、主語が非具体名詞の場合に、動詞 *есть* のある構文と動詞 *есть* のない構文がどのように使われているかについて検討してみる。

まず、同じ名詞が、ある文脈では具体物を表し、またある文脈では非具体物を表している例を見てみる。

26) Нина Фёдоровна. Миша сказал, что исполняются произведения Чайковского, но я так и не поняла толком, что в программе и кто исполнитель.

Блэйк. У меня есть программа. Вот пожалуйста. (Dia.)

“ニーナ・ヒョードロヴナ：ミーシャはチャイコフスキーの作品が演奏されると言っていたけど、私はプログラムに何があって、誰が演奏するか結局よく分か

らなかった。

ブレイク：私はプログラムを持っています。ほらどうぞ”

27) Мы готовы. Автобус уходит через пять минут. Сегодня у нас большая программа: музей, стадион, зоопарк. (До.)

“私たちは準備ができています。バスは5分後に出発します。今日はたくさんの予定があります：博物館，競技場，動物園です”

28) Саяпин. У тебя какая программа? Мы идем на футбол. (Ути.)

“サヤーピン：これから予定があるのか？ 僕たち，サッカー見に行くんだ”

26) のブレイクさんが言っている文では，ブレイクさんはプログラムを持っているから見せてあげると言っているのであり，名詞 программа は具体的な演奏会のプログラムを指している。この例では，主語が具体物を指していて，存在の意味が伝達の焦点に入っており，動詞 есть が使われている。27) と 28) では，名詞 программа は，非具体物の“予定”という意味を表している。さらに，名詞に形容詞 большая “大きな”や疑問代名詞 какая “どのような”がかかっており，明確化の意味が現れていて，動詞 есть が使われていない。

次に，同じ非具体名詞が，動詞 есть のある構文と動詞 есть のない構文で使われている例を見してみる。そのような例として，3.1 項で名詞 план “計画”，время “時間” の例を挙げ，形容詞や量を表す語がついた場合に動詞 есть のない構文が使われ，単独で用いられると動詞 есть のある構文が使われているのを見た。ここでは，さらに非具体名詞 нерв “神経” の例を挙げてみる。

29) Угаров. Да, товарищ скрипач, у вас нервы не железные.

Базильский. Нервы? Разве у вас есть нервы?

Угаров. А то как же? У вас нервы есть, а у нас выходит, нет? (Два.)

“ウガーロフ：そう，ヴァイオリニストさん，僕たちの神経は鉄でできちゃいないんだ。

バズィーリスキイ：神経？ あんたたちに神経なんてあるの？

ウガーロフ：じゃ，ないって言うのか？ あんたには神経はあるけど，俺たちにはねえってわけかい？”

この例では，動詞 есть のある構文が2つ使われているが，最初の文は，疑問詞のない疑問文で，神経の存在が問題になっており，伝達の焦点には存在の意味が入っている。2つ目の文では，「あなた方には神経はあるけど，我々にはない」ということで，есть “ある”と нет “ない”が対比されている。このような есть と нет が対比されている文は，第2節で挙げた Арутюнова и Ширяев (1983) の「1а — 動詞 быть だけが論理的力点を受けている文」に当たり，この文では，動詞 есть が必要である。

次の例では，名詞 нерв が，動詞 есть のない構文で使われている。

- 30) Базильский. И сию минуту, представьте, не разумею, откуда у вас нервы и зачем вам нервы. (Два.)

“バズィーリスキイ：分からないねえ、どうしてあんた方に神経があるのか、何のためにあるのか”

この例では、откуда “どうして”，зачем “何のために” という疑問副詞が使われていて、論理的力点が、存在の意味より、疑問の要素に落ちているので、動詞 есть のない構文が使われていると考えられる。

ところで、動詞 есть のない構文で、非具体物を表す主語が使われている例を見てみると、これらの例は 139 例と多かった。そこで、使われていた非具体名詞を意味の点から分類して検討する。

まず、семинар “ゼミ”，лекция “講義”，урок “授業”，концерт “コンサート”，ремонт “修理”，переписка “文通”，дело “仕事”，свидание “デート”，праздник “祭日”，отпуск “休暇”，день рождения “誕生日” など活動，出来事を表す例が挙げられる。

- 31) — Товарищ Князев, — перебил председатель, — мне сейчас некогда: у меня в девять совещание... (Шу.)

“「クニャーゼフさん」村ソヴェート長はさえぎった。「わたしは今暇がない——9時に会議があるんで...」”

- 32) Репников. Ну коли так, оставьте нас наедине. У молодого человека ко мне разговор. (Про.)

“レープニコフ：そういうことなら、われわれを2人だけにしてくれ。この人はぼくに話があるそうだ”

- 33) В Данию. В Да-ни-ю. Нет, не одна, с мамой. У нас там выставка. (Ча.)

“デンマークへ。デ・ン・マークへ。いや、一人じゃない、ママと。私たちはそこで展覧会があるの”

これらの例では、主語の名詞が活動，出来事を表し、名詞に述語的な意味があるので、動詞 есть が使われにくいと考えられる。

次に、y + 生格で表された人の感覚，感情，思考，状況，性格などの意味を表す語が多く使われていた。これらの名詞は、настроение “気分”，впечатление “印象”，интерес “関心”，вкус “趣味”，аппетит “食欲”，чувство “感覚”，идея “考え”，идеал “理想”，образование “教育”，несчастье “不幸”，беда “不幸”，опыт “経験”，каприз “気まぐれ” などである。

- 34) Валерия. Вадим Андрееч! У меня блестящая идея! Лучшего наказания ему не придумать! (Ути.)

“ワレーリヤ：ワジーム・アンドレーィチ！素晴らしい考えがあるんですけど！これ以上の厳罰はこの人には考えられないわ！”

35) Ступак. Перестань дуться. Как видишь, у товарища несчастье. (Два.)

“ストゥパーク：ふくれっ面はやめるよ。分るだろ，この方は不幸な目に会ったんだ”

36) Нина. И еще я поняла, что я папина дочка. Мы все в папу. У нас один характер. (Ста.)

“ニーナ：それに私わかったの，あのパパの娘だってことが。みんな父親似なのよ。性格が同じだわ”

これらの名詞は，質的な意味を表しており，y + 生格で表された人間を特徴付けている。つまり，これらの例では明確化の意味が現れている。34) の例では，名詞に形容詞が，36) の例では数詞がかかっているのも特徴的である。

また，本稿の資料では，非具体物を表す名詞が病気の名称を表している例が 15 例あったが，すべて動詞 есть のない構文が使われていた。それらの名詞は простуда “風邪”，кашель “咳”，насморк “鼻かぜ”，растяжение связок “靭帯の筋違い”，ангина “扁桃炎”，язва “潰瘍”，жар “発熱” などである。

37) Колесов. А пенсия? Будет у вас пенсия?

Золотуев. Мне пенсия не нужна, у меня жаба. (Про.)

“コーレソフ：年金は？ 年金はもらえるようになるの？

ゾロトゥーエフ：年金なんかいらねえよ，心臓病だもん”

38) У него склероз, хорошо, у него уже семь лет склероз, однако никто не предлагал ему уходить на пенсию. (Шу.)

“あの人は硬化症なんですよ，もう 7 年も硬化症なんです。でもだれも引退したらどうかなんて言いませんでした”

39) Я осмотрела мальчика, измерила температуру, проверила пульс.

— Похоже, что у Игоря воспаление лёгких, — сказал я Зое. (Го.)

“私は男の子を診て，体温を測り，脈を見て，「イーゴリは肺炎らしい」とゾーヤに言いました”

病気の場合も y + 生格で表された人がどういう状態にあるかが問題になっており，病気はその人を特徴づけており，明確化の意味が現れていると考えられる。

その他の意味の名詞としては，пора “時”，тринадцать минут “13 分”，милиция “警察”，семья “家族”，сложность “複雑なこと”，цель “目的” など時，組織や抽象的意味を表す名詞がある。

40) Так, сегодня у нас 18 февраля. Выставка открывается 20-го. (Ча.)

“ところで，今日は 2 月 18 日です。展覧会は 20 日に開かれます”

41) Нина Фёдоровна. Всё думаю, какое взять печенье. У вас сегодня большой выбор. (Диа.)

“ニーナ・フョードロヴナ：どのビスケットを買おうかとずっと考えています。今日は品揃えがたくさんあるので”

40) の例では、今日が2月18日であることが示されており、41) の例では、今日はビスケットの品揃えが多くて、選択の幅が大きいことが示されていて、それぞれ明確化の意味が現れている。

次に、動詞 *есть* のある構文で非具体名詞の主語が使われている例を見てみる。これまでに、すでに *план* “計画” (例3), *время* “時間” (例7, 8), *нерв* “神経” (例29) の例を検討したが、ここでは、まず *совесть* “良心”, *сердце* “心”, *душа* “魂” という感情、感覚を表す語の例を見てみる。

42) *Харя ты немытая, скот лесной! ... Совесть-то у тебя есть?* (Шу.)

“薄汚ない面の、森のけだものだよ、あんたは！... 良心があるのかな？”

43) — *Но у человека есть также — душа!* Вот она здесь — болит! (Шу.)

「しかし人間にはそのほかに——魂があるんだ！ ここにな——そいつが痛むんだ！」

42) の例は、疑問詞のない疑問文で、反語的に使われていて、存在の意味が強調されている。43) では魂があることが強調されている。したがって、両者とも、動詞 *есть* が伝達の焦点に入っている。

次の例は、*организация* “組織”, *театр* “劇団” という組織を表す語が使われている。

44) *А кроме комсомола у вас есть молодёжные организации?* (Диа.)

“ところでコムソモール以外にあなた方のところに若者の組織はありますか？”

45) ... *студенты поют в хоре, танцуют, играют в оркестре: у них есть свой студенческий театр.* (Го.)

“...学生たちは合唱団で歌い、踊り、オーケストラで演奏する。彼らには自分たちの学生劇団があります”

44) の例は疑問詞のない疑問文の例であり、若者の組織があるかないかが問題になっており、動詞 *есть* が伝達の焦点に入っている。45) では、形容詞と名詞が意味的にまとまった結合をなす *студенческий театр* “学生劇団” に所有代名詞 *свой* “自分たちの” がついていて、動詞 *есть* と所有代名詞 *свой* が伝達の焦点に入っていると考えられる。

ここで、主語が非具体名詞の場合に動詞 *есть* のある構文が使われることが少ないことについて見てみる。具体物や人間の場合、対象を見ることができると、それが存在することは実感でき、存在の意味が現れやすくなる。一方、非具体物の場合は対象を見ることができないので、それが存在することは実感しにくく、存在の意味は現れにくい。非具体名詞の個々の意味について見てみると、出来事や活動の意味の場合、対象自身にすでに述語の意味を含んでいるので、その対象の存在について問題にすることは少なくなる。したがって、出来事や活動は *y* + 生格で表される人を特徴づけることが多くなり、明確化の意味が現れやすい。感情、感覚、思考などの質的意味や病気、時、抽象的意味などの意味の場合も、上で見たように明確化の意味が現れることが多い。

3.3. 時や場所の状況語がある

この項では、文に時の状況語や場所の状況語がある場合の動詞 *есть* のある構文と動詞 *есть* のない構文の使われ方を検討する。それぞれの構文が使われていた頻度を表にすると表4のようになる。時の状況語の場合も、場所の状況語の場合も、動詞 *есть* のある構文の割合が、表1で挙げた資料全体における動詞 *есть* のある構文の割合（29%）よりかなり低いことが分かる。

表 4

	<i>есть</i> のある構文	<i>есть</i> のない構文	計	<i>есть</i> のある構文の割合
時の状況語	4	26	30	13%
場所の状況語	7	73	80	9%

(1) 時の状況語

まず、時の状況語がある場合に動詞 *есть* のある構文が使われている例を見てみると、そのような例は4例だけである。

46) Шаманов. Добрый день. Шаманов... Скажите, *есть у нас сейчас* машина? (Чул.)

“シャマーノフ：お早うございます。シャマーノフです... 今、車はありますか？”

47) Я не комик, *ш*тоб под пляску вам *на*игрывать. Поняли? *У вас теперь* патефоны *есть* — под их и пляшите. (Шу.)

“おれはお前たちの踊りにあわせて演奏するほど、ひょうきん者じゃない。わかったか？ お前たちには今じゃ蓄音機があるんだから、それを鳴らして踊るがいい”

48) Все они добры, *когда у тебя* деньги *есть*. (Два.)

“みんなみんな善人なんだ。こちとらに金があるときはな”

これらの例では、時の状況語があると動詞 *есть* のない構文が使われる傾向があるにも関わらず、動詞 *есть* のある構文が使われている。その原因を見てみると、46) は、シャマーノフが電話で警察の主任と話しているのであるが、疑問詞のない疑問文であり、車があるかどうかの問題になっている。47) では「蓄音機があるんだから」、48) では、「金があるときにはな」というように存在の意味が強調されている。したがって、これら3例においては存在の意味が伝達の焦点に入っている。また、これら3例とも、主語が、動詞 *есть* が使われる傾向のある具体名詞であり、主語にかかる要素なしに単独で使われていることも特徴的である。

次に、時の状況語がある場合に動詞 *есть* のない構文が使われている例を見てみると、そのような例は25例ある。しかし、主語が指す対象が具体物や人間である例は3例だけである。

49) — Они уже вернулись?

— Да. И, кажется, тоже удачно сходили.

— Значит, *теперь на* обед *у нас* прекрасная уха? (Пра.)

「彼らはもう帰りましたか？」

「はい。そして彼らもうまいこといったみたいです」

「つまり、今私たちの昼食にはすばらしい魚スープがあるということですね？」

- 50) Это было одиннадцать лет назад. Сейчас у них семья, двое сыновей, у каждого своя работа, но заниматься спортом они продолжают. (Го.)

“それは11年前のことでした。今彼らには家族があり、2人の息子がいます。それぞれに自分の仕事がありますが、彼らはスポーツを続けています”

上に検討した46)から48)の動詞 *есть* のある構文との違いを見てみると、次のような違いが見られる。49)の例では、時の状況語が使われている上に、さらに名詞と意味的に自由に結びつく形容詞 *прекрасная* “すばらしい” が使われている。50)の例では、時の状況語が使われている上に、さらに非具体物の *семья* “家族” と人間の *двое сыновей* “2人の息子” の2つの主語であり、また *сын* “息子” には量を表す語 *двое* “2人” がかかっている。

一方、主語が指す対象が非具体物である例は多い。また、本稿の資料では、時の状況語がある場合、主語が非具体物を指している、すべて動詞 *есть* のない構文が使われていた。

- 51) — Здравствуй, Ютака! Как твои дела?

— Спасибо, хорошо! У нас сейчас сессия. (Го.)

「こんにちは、豊！ ごきげんいかがですか？」

「ありがとうございます！ いま試験期間なんです」

- 52) Предупреждаю тебя, сегодня у меня отвратительное настроение. (Чул.)

“君に警告しておくが、僕はきょう最低に機嫌が悪いんだぜ”

- 53) В четверг вернусь, так как вечером выступаю на заводе 《Глобус》. В пятницу и субботу у меня репетиции. (Пра.)

“木曜日に戻ってきます。なぜなら晩に『グローブス』工場で演奏します。金曜日と土曜日はリハーサルがあります”

これらの例では、動詞 *есть* のない構文が使われる傾向のある、「Ⅱ. 主語が非具体名詞である」、「Ⅲ. 時や場所の状況語がある」という2つの要因が共存している。

(2) 場所の状況語

場所の状況語がある場合も、時の状況語がある場合と同様に、動詞 *есть* のある構文が使われることが少ない。そして、動詞 *есть* のある構文と動詞 *есть* のない構文の使われ方も、時の状況語の場合と似ているので、ここでは、場所の状況語がある場合に特徴的な、場所の状況語が身体部分を示している例について検討する。

本稿の資料では、場所の状況語が身体部分を示している場合、動詞 *есть* のある構文は使われていなかった。また、主語は、次の例を除いてすべて具体名詞であった。

54) Осечка. На лице у Шаманова ужас, погом недоумение. Пашка роняет пистолет. (Чул.)

“不発である。シャマーノフの顔に恐怖，それが困惑に変わる。パーシカ，ピストルをとり落す”

この例では，主語の名詞として抽象名詞の ужас “恐怖” と недоумение “困惑” が使われている。

ところで，場所の状況語が身体部分を表す例のほとんどは，主語が指す対象を手に持っていることを示している例である。本稿の資料では，手に持っていることを示している例は24例あるが，そのほとんどが地の文で使われている。会話体の部分で使われている例は次の2例だけである。55) の例では большой “大きい”，56) の例では неплохая “なかなかいい” という名詞と意味的に自由に結びつく形容詞が使われている。

55) Я делаю рукой: 《Хайль Гитлер!》. В руке у меня большой пакет, в пакете — браунинг, заряженный разрывными отравленными пулями. (Шу.)

“おれは『ハイル・ヒトラー』と挙手した。手に大きな包みを持って，包みの中には毒入りの炸裂弾を装填したブローニングが入っていた”

56) У тебя в руках неплохая машина. Старенькая правда, но все же... Может, попробуешь? (Чул.)

“君が手に持ってるのは，なかなかいい機械なんだぜ。たしかに少し古いことは古いがな... 試してみるか?”

残りの例は地の文で使われていたが，1例を除いて，新しく登場してきた人物がどのような恰好をしているかを特徴づける文において見られる。

57) Майкл Блэйк, англичанин лет пятидесяти, подходит к дежурному по вокзалу. У него в руках чемодан и дорожная сумка. (Диа.)

“50歳ぐらいのイギリス人マイクル・ブレイクさんは，空港の係員にところに近づく。彼は手にスーツケースと旅行かばんを持っている”

58) Входит Маша. У неё в руках цветы. (Диа.)

“マーシャが入ってくる。彼女は手に花を持っている”

59) Появляется Галина. В руках у нее плащ и портфель. (Ути.)

“ガリーナが現れる。手にコートと鞆を持っている”

57) と 58) は会話の教科書の例で，57) はロシアの空港に着いたブレイクさんが手にスーツケースとかばんを持っていること，58) は部屋に入ってきたマーシャが花を持っていることを示している。59) はヴァムピーロフの戯曲の例で，舞台上に登場してきたガリーナが手にコートと鞆を持っていることを示している。したがって，これらの例では，新しく登場してきた人の様子を伝えており，明確化の意味が現れていると言える。そして，明確化の意味が現れることにより，比較的動詞 есть のある構文が使われやすい具体名詞が使われているにもかかわらず

ず、動詞 *есть* のない構文が使われている

新たに登場してきた人の様子を伝えていない例は次の例で、この例では、直前の文で *трубка* “受話器” の存在することはすでに分かっており、存在の意味が伝達の焦点に入っていない。

60) Снимает трубку. Трубка у него в одной руке, в другой — ружье. (Ути.)

“受話器を取る。片手に受話器，もう一方に猟銃を持っている”

手に持っている例以外の3例は、靴を履いている例，帽子をかぶっている例，リュックサックを背負っている例であった³⁾。

61) Он поднимается, шарит в тумбочке и под столом. Он уже одет, но на ногах у него один ботинок. (Два.)

“立ち上がって小さな台の中やテーブルの下を手探りする。すでに服を着ているが，片方の靴しか履いていない”

62) Сейчас он в свитере, в широких брюках, босой, на голове у него кепка. (Ути.)

“今の彼はセーターにだぶだぶのズボン，裸足で，頭には鳥打帽をかぶっている”

これらの例では，身につけている物は，それらを身につけている人を特徴づけている。

この項では，まず時や場所の状況語がある場合に，動詞 *есть* のある構文が使われにくいことを示した。そして，その理由は，文に時や場所の状況語が加わることにより，伝達する情報が増え，存在の意味が伝達の焦点に入りにくくなるためであると考えられる。また，そのことにより，明確化の意味が現れやすくなっている。

3.4. 疑問詞のない疑問文である

この項では，疑問詞のない疑問文において，動詞 *есть* のある構文と動詞 *есть* のない構文がどのように使われているか見てみる。疑問詞のない疑問文における，動詞 *есть* のある構文と動詞 *есть* のない構文の頻度を示すと表5のようになる。

表 5

	<i>есть</i> のある構文	<i>есть</i> のない構文	計	<i>есть</i> のある構文の割合
疑問詞のない疑問文	41	17	58	71%

動詞 *есть* のある構文の頻度が非常に高いことが特徴的である。この点に関して，Арутюнова и Ширяев (1983) は，次のように述べている。

「1a タイプの文の枠内で，より個別の場合を具体化することができる。動詞の構成要素 *есть* は，次のような場合つねに存在する。

1) 一般的な存在の疑問とそれに対する答，あるいは一般的な疑問との結びつきを前提とし

ている発話において：

У тебя есть здесь друзья? — Да, у меня здесь есть друзья.

“「きみにはここに友達がありますか?」「はい、わたしにはここに友達があります」”

В этом озере есть рыба? — Да, рыба здесь есть.

“「この湖に魚がありますか?」「はい、魚はここにいます」”

У тебя есть совесть (воля, здравый смысл)? — Надеюсь, что есть.

“「きみには良心(意志, 常識)がありますか?」「あると思います」”(84 ページ)

どこで、疑問詞のない疑問文の場合の動詞 есть のある構文は、本稿でこれまで多くの例を挙げて検討してきた(例 1, 14, 23, 29, 42, 44, 46)。ここでは、さらに3つ例を挙げてみる。

63) — У вас есть московская колбаса?

— Да, есть. (Го.)

“「あなたのところにはモスクワ風ソーセージはありますか?」

「はい、あります」”

64) Блэйк. А у вас есть гараж?

Русин. Пока нет. (Диа.)

“ブレイク：で、あなたはガレージを持っていますか?

ルーシン：今のところは持っていません”

65) — У тебя три рубля есть? До получки..

— Есть. (Шу.)

“「お前3ルーブル持っているか? 給料日まで貸せ...」

「持ってる」”

63) の例では、形容詞と名詞が意味的にまとまった結合をなしている московская колбаса “モスクワ風ソーセージ” の存在が、64) の例では、гараж の存在が問題になっている。65) の例では、主語に数詞がかかっているが、3ルーブルがあるかどうかの問題になっている。このことは、その返事において、есть “ある” や нет “ない” という語が使われていることによっても明らかになる。したがって、これらの例においても、これまで検討してきた例と同様に、存在の意味が伝達の焦点に入っている。

次に、疑問詞のない疑問文において動詞 есть のない構文が使われている例を検討してみる。

動詞 есть のない構文の例としては、まず、主語に形容詞や量を表す語がかかっている例が挙げられる。

66) — А у вас большая семья?

— Нет, нас трое — жена, я и дочь. (Го.)

“「で、あなたは大家族ですか?」

「いいえ、私たちは、妻、私、娘の3人です」”

67) — У вашей станции один выход?

— Нет, два. Садись в последний вагон и выходи направо. (Пра.)

「あなたの駅は出口が1つですか？」

「いいえ、2つです。最後の車両に乗って、右に出てください」

疑問文に対する答が、66) では Нет, нас трое “いいえ、3人です”，67) では Нет, два. “いいえ、2つです” となっていることから、これらの疑問文では、存在の意味ではなく、形容詞 большая “大きい” や数詞 один “1つ” に論理的力点が落ちていると考えられる。

次の例では、場所の状況語 там “そこに” が使われている。

68) Колесов. Надо подумать... Подожди, на селекционную?.. У Маши, кажется, там родители? (Про.)

“コーレソフ：考えとくよ... 待てよ、品種改良ステーションだって？ マーシャの両親がいるんじゃないか？”

また、次の例では活動や出来事を表す名詞が使われている。

69) Макарская. И не смотри на меня так.

Васенька. Что случилось? У тебя свидание? (Ста.)

“マカールスカヤ：それにそんな風に私を見るの、止めて頂戴！

ワーセンカ：何があったんだ？ デートでもあるのか？”

70) Блэйк. У вас, Нина Фёдоровна, день рождения? Вот досада, я и не знал. (Диа.)

“ブレイク：ニーナ・ヒョードロヴナさん、あなたの誕生日なのですか？ 知らなかったので残念です”

次の例では、オウムが“切符”と言ったので、ファンはニックが切符を持っていると思って、「切符を持っているのですか？」と確認しているのである。ここでは、存在の意味より明確化の意味が強く出ている。

71) Попугай. Билеты! Билеты!

(При слове “билеты” Ника мгновенно окружает толпа болельщиков.)

Болельщики. О, билет! У вас билет? Один билет! (До.)

“オウム：切符！切符！

（“切符”という言葉聞いて、ニックをたちまちファンの群が取り囲む）

ファン：ああ、切符！ あなたは切符を持っているのですか？ 切符1枚！”

次の例でも、婚約者がいることはすでに話題にのぼっており、聞き手のヴェーラは婚約者がいることを確認している。それに対するズィーロフの返事も、Да, есть. “はい、います”ではなく、Да, невеста. “ああ、婚約者さ”となっている。

72) Зилов. Ну вот, все в сборе. Сейчас придет моя невеста... (Ждет замечаний.)

Валерия. Невеста?

Зилов. А что?.. Может, вас это не устраивает?

Валерия. Ну, во всяком случае, новость...

Вера. У тебя невеста?

Зилов. Да, невеста. (Ути.)

“ズィーロフ：さて、これで皆さんお揃いだ。もうすぐ私の婚約者が参ります... (誰かが何か言うのを待っている)。

ワレーリヤ：婚約者ですって？

ズィーロフ：何です？ ...まずいですか？

ワレーリヤ：ううん、少なくともニュースではあるわね...

ヴェーラ：あんたに婚約者が？

ズィーロフ：ああ、婚約者さ”

次の例では、前の文脈から、おじさんが別荘を持っていることを知っており、別荘があることを確認していて、持っているか持っていないかの返事は期待していない。したがって、相手の返事を聞かずに *Это интересно*。“そりゃ面白い”という言葉が発している。

73) Колесов. У вас, стало быть, дача?.. Это интересно. А пенсия? Будет у вас пенсия? (Про.)

“コーレソフ：おじさん、別荘を持ってるんだって？ そりゃ面白い。年金は？ 年金はもらえるようになるの？”

以上のことから、まず疑問詞のない疑問文では、存在の意味が伝達の焦点に入ることが多く、動詞 *есть* のある構文が使われることが多いことが分かった。しかしながら、主語の名詞に形容詞や量を表す語がかかる場合や、主語の名詞が活動や出来事を表す場合や確認の意味が現れる場合などに、動詞 *есть* のない構文が使われることがあると言える。

3.5. 会話の教科書

表1に示されているように、会話の教科書における動詞 *есть* のある構文の頻度 (41%) は、ヴァンピーロフの戯曲における頻度 (20%) やシュクシーンの短編集における頻度 (24%) よりかなり高くなっている。そこで、この項では、会話の教科書で、動詞 *есть* のある構文がどのような場合に使われているか見てみる。

まず、動詞 *есть* のある構文がよく使われている場合は、お客と店員などとの商品についての対話である。このような例は、会話の教科書における動詞 *есть* のある構文 60 例中の 29 例を占めている。この場合、商品は具体物であり、動詞 *есть* のない構文は使われていなかった。お客と話しているのは、本屋、酒屋、写真屋、レコード店などの店員、切符売り、売店の売り子、ウェイターなどである。

それらの例を見ていくと、まず、お客が店員などにある品物があるかどうか聞いている例が挙げられる。これらの例では疑問詞のない疑問文が使われている。

74) Блэйк. У вас есть клубника?

Продавец. Нет. Сейчас уже не сезон. (Диа.)

“ブレイク：あなたのところにイチゴはありますか？”

店員：いいえ。今はもうシーズンではありません”

75) — У вас есть билеты на 《Бориса Годунова》?

— Есть два билета. (Го.)

“「あなたのところに『ボリス・ゴドゥノフ』の切符はありますか？」

「2枚あります」”

次に、お客の要望や質問に対して、店員などがこれこれの品物があると答えている文で動詞 есть は使われている。

76) — Я бы выпила немного сухого вина вроде 《Цинандали》.

— 《Цинандали》 у нас есть, — сказал официант. (Го.)

“「私は『ツィナンダリー』のような辛口のワインを少し飲みたいのですが」

「『ツィナンダリー』は当店にございます」とウエイターは言った”

次に、店員などが品物を薦めているのに、お客がその品物はあると言って断っている例で動詞 есть は使われている。

77) Продавец. Вот посмотрите пособие в двух книгах.

Блэйк. Спасибо, оно у меня есть. (Диа.)

“店員：ほらこの2巻本の参考書を見てください。

ブレイク：ありがとう、それは私のところにあります”

また、店員などが、これこれの品物があるので買いませんかと薦めている例で動詞 есть は使われている。

78) Кассир. Кстати, у меня есть два билета в 《Современник》, не хотите? (Диа.)

“切符売り：ところで、『ソヴレメンニク』の切符が2枚ありますけど、買いませんか？”

さらに、お客と店員などとの商品についての対話において特徴的なのは、特徴づけを表し、明確化の意味が現れる疑問代名詞 какой “どのような” が、動詞 есть のある構文で使われていることである。

79) Русин. Какая зубная паста у вас есть?

Продавщица. Есть 《Мятная》 и 《Детская》. (Диа.)

“ルーシン：あなたのところにどんな練り歯磨きがありますか？”

店員：『はっか入り』と『子供用』があります”

80) Блэйк. (Продавцу). Будьте добры, покажите, какие у вас есть англо-русские словари.

Продавец. Посмотрите вот этот. В нём около семидесяти тысяч слов и выражений. (Диа.)

“ブレイク：(店員に) すみませんが、どんな英露辞典があるか見せてくれませんか。

店員：ほら、これを見てください。この辞書には約7千の語と表現が載っています”

79) の例における店員の返事は、『はっか入り』と『子供用』の練り歯磨きがあることを伝えている。80) でも、店員は実際にどのような辞書があるかを見せている。これらのことを考慮に入れると、79) と 80) の質問の文においては、伝達の焦点に疑問代名詞 *какой* と動詞 *есть* 両方が入っていると考えられる。そして、そのさい *какой* の方により大きな論理的力点が落ちていると言える。

次に、会話の教科書の特徴としては、本稿で扱っている要因という点から見ると、疑問詞のない疑問文が多く使われていることが挙げられる。上で扱ったお客と店員などとの商品についての対話において使われている例以外にも多くの例があり、動詞 *есть* が使われることが多い。

81) Русин. А мелочь у вас есть?

Блэйк. Есть пять копеек. (Диа.)

“ルーシン：で、あなたは小銭を持っていますか？

ブレイク：5コペイカあります”

82) — У вас есть дети?

— Да. У меня трое детей: дочь и два сына. (Пра.)

“「あなたにお子さんはありますか？」

「はい。私には3人の子供、娘と2人の息子がいます」”

83) — У вас есть такие студенты? — поверила Марина.

— Конечно, нет, — обиделся Николай. (Го.)

“「あなたのところにはそのような学生はいますか？」とマリーナは確かめた。

「もちろん、いません」とニコライは怒った”

なお、会話の教科書にある疑問詞のない疑問文で、動詞 *есть* が使われていない例としては、66) と 67) の例が挙げられる。

以上のことから、会話の教科書に動詞 *есть* のある構文が多い主な原因は、お客と店員などとの商品についての対話の例や疑問詞のない疑問文の例が多く使われていることにあると考えられる。本稿の資料では、動詞 *есть* は、前者では常に使われ、後者ではほとんどの場合に使われている。

4. お わ り に

本稿では、ロシア語の *y* + 生格構文における存在動詞 *есть* の使われ方を、動詞 *есть* の使われ方に影響を与える4つの要因を設定して検討した^{4,5)}。その結果、表6のような傾向があることが分かった。

表 6

要 因	動詞 есть が使われる傾向
I. 主語にかかる形容詞や量を表す語がある	小さい
II. 主語が非具体名詞である	小さい
III. 時や場所の状況語がある	小さい
IV. 疑問詞のない疑問文である	大きい

ところで、本稿で検討したことから、y + 生格構文において存在の意味が伝達の焦点に入ると動詞 **есть** が使われると考えられるが、「I. 主語にかかる形容詞や量を表す語がある」場合や、「III. 時や場所の状況語がある」場合には、伝達の焦点がそれらの語に移ることが多くなり、明確化の意味が現れ、動詞 **есть** のない構文が使われることが多くなる。「II. 主語が非具体名詞である」場合は、目で見えない非具体物は、目に見える具体物より、存在について問題にされることが少なく、存在の意味が伝達の焦点に入りにくく、動詞 **есть** のない構文が使われることが多い。実際、非具体名詞は、活動、出来事の意味のように述語的な意味を持つものや、感覚、感情の意味のように質的な意味を持つもののように明確化の意味が現れやすい対象を示している。「IV. 疑問詞のない疑問文」では、主語が表す対象があるかどうかを尋ねることが多く、存在の意味が伝達の焦点に入りやすく、動詞 **есть** のある構文が使われることが多い。

また、これまで検討してきた例を見ると、実際には、上に挙げた要因が相互に影響を及ぼしあっていることが分かる。たとえば、3.2 項の 29), 42), 44) の例のように、主語が非具体名詞であっても、疑問詞のない疑問文なので、動詞 **есть** のある構文が使われている例もあり、逆に、3.4 項の 69), 70) の例のように、疑問詞のない疑問文であるが、主語が非具体名詞であるので、動詞 **есть** のない構文が使われている例もある。また、次の例のように、I, II, III の要因が共存すると動詞 **есть** が使われる可能性は少なくなる。

84) Там у нас два концерта. (Пра.)

“そこでは、私たちは2つのコンサートがある”

85) Он мог бы сказать, что у него сегодня тяжёлый день... (Диа.)

“彼は、今日は大変な日ですと言えたのに...”

しかしながら、話者が存在の意味を伝達の焦点に入れようとする意図が強いと、I ~ III の要因が複数あっても、動詞 **есть** が使われている例がある。

86) Кушак. В самом деле, Виктор. Я полагаю, здесь у каждого есть свои увлечения, нельзя же так... (Ути.)

“クシャーク：本当だよ、ヴィクトル。めいめいにそれぞれ自分の趣味があるんだからな。いかんよ、そんなこと言うのは...”

したがって、ロシア語の y + 生格構文における動詞 **есть** の使用を決定する要因は、存在の意

味が伝達の焦点に入るという要因であるが、存在の意味が伝達の焦点に入るがどうかにか本稿で扱った4つの要因が影響を与えると言える。

注

- 1) それぞれの資料名を示すと次のようになる。また、それぞれの資料の前に、例文を挙げるさいに出典を示すために略号をつけた

1. 会話の教科書

(Го.) エス・ハブローニナ『ロシア語を話しましょう』, Москва. Русский язык. 1991

(Пра.) Г. А. Богатова и др. Практика русской разговорной речи. Москва. Русский язык. 1976

(Диа.) А. Н. Шукшин. Русский язык в диалогах. Москва. Русский язык. 1987

(До.) Л. П. Мухин, Л. Б. Шамшин. Добро пожаловать! Москва. Русский язык. 1987

(Ча.) Г. М. Левина и др. Чашки. Санкт-Петербург. Златоуст. 1992

2. ヴァムピーロフ (А. В. Вампилов) の戯曲

(Два.) Двадцать минут с ангелом. 1962

(Про.) Прощание в июне. 1964

(Ста.) Старший сын. 1965

(Ути.) Утиная охота. 1968

(Мет.) История с метранжажем. 1970

(Чул.) Прошлым летом в Чулимске. 1971

3. シュクシーン (В. М. Шукшин) の短編集

以下の2つの作品集から20の作品を選んだ。これらの作品は1964年から1973年に書かれたものである。

(Шу.) В. М. Шукшин. Рассказы. Москва. Русский язык. 1981

(Шу.) В. М. Шукшин. Рассказы. Петрозаводск. Карелия. 1983

なお、ヴァムピーロフの戯曲とシュクシーンの短編小説の例の訳は、以下の翻訳によった。

宮澤俊一、五月女道子訳 ヴァムピーロフ『去年の夏、チュリームスクで』群像社 1987年

宮澤俊一、五月女道子訳 ヴァムピーロフ『長男』、『鳴猟』群像社 1989年

染谷茂訳 シュクシーン『日曜日に老いたる母は…』群像社 1983年

染谷茂訳 シュクシーン『頑固者』群像社 1984年

- 2) これら4つのタイプの文に関しては、彼らは、

「最初の対のカテゴリー (1a, 16) では、一定のクラスの対象の大きいあるいは小さい世界での存在の観念が主張されている。第2の対のカテゴリーでは、その存在自体が与えられたものであると考えられているある総体からの事物の分離が実現される。2aのカテゴリーでは種の特徴への指示が必ず存在する。

Среди охотничьих собак есть умные. “猟犬の中には賢い犬がいる”

26のカテゴリーにとってはそのような指示は義務的ではない。

Была у меня в детстве одна собака. “私には子供のころ1びきの犬がいた” (83-84 ページ) と述べている。

- 3) Isačenko (1974) は、衣服を指す名詞の場合、動詞 *есть* のない構文は身につけていることを、動詞 *есть* のある構文は単なる所有を表すと言っている。

「*есть* / ゼロ構文の対立は、それが衣装 (wardrobe) の一部を指すなら非常に特殊な風に解釈される。ゼロ構文は、実際に着ている衣装の一部を指す。

27) У неё новые ботинки ‘She has (wears) new shoes’

一方、このタイプの *есть* 構文は単なる‘所有’を示す。

28) У неё есть новые ботинки, но она их не носит

'She has new shoes, but does not wear them.' (57 ~ 58 ページ)

しかしながら、本稿の資料では、61) と 62) の例では、動詞 есть のない構文は実際に衣服を身につけていることを示していたが、59) の例と次の例では、動詞 есть のない構文は、衣服を手にかけていることを示しており、衣服は身につけていなかった。

87) Она в сиреновом платье, в руке у нее синяя кофта. (Чул.)

“彼女は藤色のワンピースを着、青いカーディガンを持っている”

4) 本稿の資料では、「部分性の意味」と「全体性の意味」に関する有意義な分析は出来なかった。まず第 1 に、動詞 есть のある構文の次の例のように、「存在の意味」がはっきり現れ、「部分性の意味」が現れていない例が多く存在した。

88) Дергачев. Работать-то ты работал, а документы у тебя есть? (Чул.)

“ジェルガチョーフ：働いたことは働いたさ。でもよ、証明書があるかい？”

89) Папа. Дайте, пожалуйста, лекарство.

Аптекарь. У вас есть рецепт? (До.)

“パパ：どうか薬をください。

薬剤師：あなたは処方箋を持っていますか？”

90) Продавец. Вот посмотрите пособие в двух книгах.

Блэйк. Спасибо, оно у меня есть. (Диа.)

“店員：ほらこの 2 巻本の参考書を見てください。

ブレイク：ありがとう、それは私のところにあります”

また、「部分性の意味」と「全体性の意味」がよく現れるとされる (Isačenko (1974: 56), Панде (1985: 18)) 名詞の複数形に形容詞がかかっている例も少なかった。名詞の複数形に形容詞がかかっていて「部分性の意味」と「全体性の意味」が現れているのは、次の 4 例だけであった。

91) У неё серые глаза и светлые волосы. (Го.)

“彼女の眼はグレイ色で、髪の毛は金髪です”

92) Сарафанов. Нет-нет, меня не назовешь неудачником. У меня замечательные дети... (Ста.)

“サラファーフ：いやいや、わしのことを人生の敗残者なんて言えやしない。じつに素晴らしい子供たちがいるんだから...”

93) — Посмотрите изделия из кожи. У нас есть хорошие папки и бумажники. (Го.)

“「皮製品を見てください。私たちの店には素晴らしい書類入れと財布があります”

94) — У моей тетки есть редкие иконы. Она, конечно, трясется над ними, но когда приезжают знающие люди — показывает. (Шу.)

“私のおばが珍しい聖像をもっているんです。おばは、もちろん、それをひどく大事にしています。物のわかる人が来ると、見せるんです”

91) と 92) の例では、動詞 есть が使われておらず、93) と 94) の例では、動詞 есть が使われている。91) の例の訳は会話の教科書に書かれているものであり、「髪の毛が金髪である」ことを伝えられていて「全体性の意味」が表されている。92) の例では、前の文脈から「自分のすべての子供が素晴らしい」と言っていることが分かり、「全体性の意味」が表されている。したがって、これらの例は、動詞 есть のない構文では「全体性の意味」が表されるという Селиверстова (1973) の主張と一致する。ところが、93) の例では、店員が何を意図して言っているかにより結果が異なる。店員が店にある書類入れと財布の 1 部を紹介しようとしてその 1 部の品物を素晴らしいと言っているなら、「部分性の意味」が現われ、動詞 есть のある構文では、「部分性の意味」現れるとする Селиверстова (1973) の主張と一致する。一方店員が自分の店の書類入れと財布すべてが素晴らしいと言っているなら、「全体性の意味」が現れ、動詞 есть のある構文では、「部分性の意味」現れるとする Селиверстова (1973) の主張と一致しない。この場合、3.5 項で述べたように店員さんがお客に品物を薦めるときには動詞 есть のある構文を使うのがふつうになっているので、「全体性の意味」が現れても動詞 есть のある構文が使われたと考えられる。94) の例でも、おばの持っている聖像のすべてが珍しいものか、一部が珍しいものであるかは、前後の文脈からは分からない。

5) 本稿では、4 つの要因を設定して分析したが、資料を詳しく検討すれば、さらに多くの要因が見つ

かるものと思われる。

参考文献

- Арутюнова, Н. Д. 1976a *Предложение и его смысл: логико-семантические проблемы*. Москва: Наука.
- 1976b Бытийные предложения в русском языке. *Известия АН СССР: Серия литературы и языка* 35: 229-238.
- Арутюнова, Н. Д и Шпряев, Е.Н. 1983 *Русское предложение. Бытийный тип (структура и значение)*. Москва: Русский язык.
- Chvany, C.V. 1975 *On the syntax of BE-sentences in Russian*. Cambridge: Slavica.
- Isačenko, A.V. 1974 On 'have' and 'be' languages (a typological sketch). In: Michael S. Filer (ed.) *Slavic forum: essays in linguistics and literature*, 43-77. Hague: Mouton.
- Панде, Х. Ч. 1981 К семантике *есть* в локативных и possessивных конструкциях. *Russian Linguistics* 5: 291-299.
- 1985 Глагол *быть* и количественная характеристика объекта. *Russian Linguistics* 9: 17-25.
- Селиверстова, О.Н. 1973 Семантический анализ предикативных притяжательных конструкций с глаголом *быть*. *Вопросы языкознания* 5: 95-105.
- 1983 Понятия «множество» и «пространство» в семантике синтаксиса. *Известия АН СССР: Серия литературы и языка* 42-2.
- Voeikova, M.D. 2000 *Russian existential sentences: a functional approach*. Muenchen: Lincom Europa.

The Use of the Verb *est'* in the U + Genitive Construction in Russian

Masahiro AOKI

Abstract

The u + genitive construction in Russian is used either with the verb *est'* or without it.

- 1) U vas est' gen'gi? "Have you any money?"
- 2) U vas bol'shaya kvartira? "Have you a large flat?"

In this paper we proposed four factors which influence the use of the verb *est'*, and the analysis of these four factors brought out the following tendencies:

1. If there is an adjective or quantifier which modifies the subject, the verb *est'* is used less frequently.
2. If the subject refers to the non-concrete object, the verb *est'* is used less frequently.
3. If there is an adverbial modifier of time or place, the verb *est'* is used less frequently.
4. In the interrogative sentence without an interrogative word the verb *est'* is used more frequently.

After the analysis of the materials we came to the conclusion that the focalization of the existential meaning is the factor which decides the use of the verb *est'* and the above-mentioned four factors influence the focalization of the existential meaning.

Keywords: u + genitive construction, existential verb, Russian, possessive construction, focus